

高橋 美博 議員

新病院開院後の受診動向は

問 外来診療と救急搬送先に、磐田市立総合病院を自由に選択できるか。

答 外来診療は、基本的に受診する病院を本人の意思で決めることになる。救急搬送については、少しでも近いところに搬送できることが患者の安心感につながる。病院間で具体的な話し合いを進め、市民が安心して救急医療体制の確立を図ってきたい。

問 (仮称)袋井市立聖隷袋井市民病院が開院となるが、療養病床、回復期リハビリテーション病床の需要予測はどうか。

答 構想策定時の調査では、療養病床で122人、回復期リハビリテーション病床では154人が市外の病院に入院しているとの数字もあり、十分な需要があると判断している。



新たに生まれ変わる袋井市民病院

市長の浜岡原発への認識は

問 市長の「浜岡原発再稼働は認めない」との意味するものは何か。

答 福島第一原発の事故原因の究明が不十分なことや、原発施設の直下にある活断層の対策が講じられていないこと、また、大津波が防潮堤を越えた場合の危険性などから、再稼働を到底認めることはできないという認識である。

廣岡 英一 議員

文化行政・行政の

文化化への見解は

問 オイルショック後の昭和50年代、経済が急成長へ向かう中、地方の時代が提唱され、心の豊かさを求めるようになった。行政も事務事業全般に文化的視点を取り入れる文化化が模索され、地域文化の創造や地域おこしが活発化した。社会の閉塞感が強い今こそ、文化行政が必要ではないかと考えるがどうか。

答 現在は、先が非常に不安定な状況であると感ずる。先の見通しを市政の中で展開していくことが市民満足度を高めることであり、文化行政もその大きな要素である。本市がどういう方向に進んでいくかということ、文化的な行政施策として打ち出していくことは難しいと思うが、そのようなものに取り組んでいくことが必要と考える。



文化の振興を目指して設置されたメロープラザ

問 本市が総合計画の策定にあたって行った満足度や重要度の調査の結果は、物の豊かさや便利さの要望傾向である。ブータン王国の幸福論や指標から学ぶ点はないか。

答 本市としては、心・体・まの健康を追求することが市民の幸福につながると思われている。物質的な満足感の中に、心による満足感を多く入れていくことができるよう努力していきたい。